

# ひかりのこ

10月園便り

聖ミカエル幼稚園  
2015年9月24日

月主題：きもちがいい

## 『実りの秋』

9月も後半になると、急に風が冷たくなり、「ああ、今年の夏も終わってしまった。」と少し寂しくなります。でも、北海道の秋はおいしいものがたくさん。先日、我が家でもやっと安くなったサンマや、1年待っていた生筋子をスーパーで買って、サンマの塩焼きや手作りイクラを作りました。

幼稚園の子ども達も秋の実りを存分に楽しんでいます。年長さんは、8月の末、白石区の東米里にお借りしている畑で、春に植えたジャガイモを収穫してきました。期待通りの豊作で、年長さんは一人10個づつ袋に入れて持ち帰り、そのほかに黄色のコンテナに3箱、収穫することができました。

幼稚園の小さな畑にもいろいろな野菜が植わっていました。玉ねぎ、にんにく、ミニトマト、キュウリ、にんじん、スナップエンドウ、枝豆。

玉ねぎとにんにくは茎が倒れたので、9月の初めごろ収穫しました。にんにくは収穫の時期を過ぎてしまい、ばらけたり、太りすぎたりしましたが、オイル付けにして、仲良しランチなどで使おうと思います。玉ねぎはにんじんとジャガイモと共に、年長さんが11月にクッキングで使います。キュウリは7月から9月までにずいぶんたくさん獲れました。私が薄切りにして、塩でもんでお弁当や、遠足に持って行って子ども達に食べさせると、「おいしい、おいしい。」とよく食べます。中にはお家で一切キュウリを食べない男の子も「おいしいよ。食べる？」と聞くと「うん!」と言ってキュウリをもらって「おいしい!」とパクパク。取れたての甘いキュウリ、そしてお友達と一緒に食べるキュウリは、いつものキュウリと全然違うのでしょうか。(お母さん方にも「園長先生、キュウリの塩もみの作り方教えてください!」とお願いされますが、「ただ、塩を適量に入れただけ。特に作り方はありません。」と答えています。)

ミニトマトも自由遊びの時間に食べ放題。やっぱり、お家では食べないけど、「ミカエルのトマトはおいしい!」と食べられるようになった女の子もいます。

そして、9月10日には年中さんが、枝豆を収穫してくれました。枝豆の根は地中にしっかり張っていますので、引っこ抜くのも大変です。年中さんたちはみんな力を合わせて、ウンショ、ウンショと枝を引っこ抜き、小さな手で力いっぱい一つの鞘を外してくれました。大なべに三つ。すぐ茹でて、お塩を振りかけて、

お昼に食べました。親子教室のいちごちゃんにも、バザーの準備にいらしていたお母様方にもおすそ分けしました。お豆が甘くて、味が濃くて、子ども達は大満足。どの子も収穫をしてくれた年中さんに、「おいしかったよ!ありがとう。」とお礼を言ってくれたので、それも年中さんは大満足。

神様からいただいた豊かな恵みを皆で分けていただいて、お腹も心も満足した秋の一日でした。

園長 渡部良子

## キリスト教保育

### 「子どものちから」

東日本大震災の2ヶ月後、私は被災地の釜石に派遣されました。同じ聖公会の教会と保育園をサポートするためでした。行ってみなければ何ができるか分からない状態でした。街にはがれきが溢れ、異臭が漂い、日本各地からの警察車両が溢れていました。

スーパーの立ち話では、消息不明の家族のこと、～さんが目の前で流されたという話題が飛び交うのですが、そう話す人々の淡々とした表情に驚かされます。悲惨が特別なことではなくなっているのです。反面、些細なことで小競り合いが起き、ガソリンスタンドの貼り紙には、「最近、暴力的な言動が見受けられます。冷静な対応をお願いします」とあります。半壊した家の中から、震災当日に金目の物を盗まれたという人のお話しも聞きました。家族や財産を失った人々が、心をも失いかけている。おそろく同様のことが被災地全体で起こっていたのでしょ。現地ではこのような人心の乱れもまた、二次被災であると言っていました。

このような状況の中で、私は子どもたちの存在が多くの人にとって支えとなり、希望となっているのを目にしました。通りすがりに園庭で遊んでいる子どもたちを立ち止まって見つめる人、近くにできた仮設住宅から、毎日、子どもたちの様子を見に来るお年寄りがあります。また、先生たちの中にも家族や家を失った人がいます。園長は出勤しなくていいと言うのですが、先生たちはむしろ子どもたちといたい、といいます。被災地では立場が逆転し、子どもたちが大人を守り、疲弊した大人たちを癒すという場面が多くありました。その力がどのようなものか、私は言葉で説明することは難しいし、むしろ聖なる領域に属しているのではないかとさえ感じます。

このことは被災地だけに限ったことではないかも知れません。私たちもまた、子どもたちから多くのものを与えられ、育てられているのではないかと。子どもたちの中にある、大きな力を、謙虚さをもって受け止めたいと思いました。

チャブレン 下澤 昌